奨学金： 日本の翼 育英奨学金
大　学： 桜美林大学
名　前： 村田 侑大郎
国　籍： 日本

現在、私は自家用操縦士資格、計器飛行証明を取得し終え、事業用操縦士課程を行っております。これまでの訓練では、ただライセンスの取得を目的とした訓練の在り方ではなく、プロとして今どういう行動を取るか、何を意識して訓練に挑むかということを常に考えながら日々の訓練を行ってきました。妥協はしたくないという一心でこれまでやってきました。飛行訓練における９割は地上での準備次第でそのフライトの良し悪しが決まると私は考えています。そのフライトがもし、何百人ものお客様を乗せたフライトであれば失敗は許されません。そのフライトは単なる交通手段だけでなく、お客様に提供するサービスとして完璧でなければなりません。だからこそ、学生の時からそういった基準、意識を持って訓練に挑むという事が大切だと考え、取り組んできました。

また、フライトに関する勉強以外でも、人としてさらに成長する事、正しいリーダーシップを身に付ける事を意識的に行ってきました。きっと航空会社が求める基準というのは、高い知識、技量だけではないと思います。機長として、それに見合った成熟した人間性やクルーをまとめる能力が求められるはずです。だからこそ、こういった取り組みを今の段階から実行し、これからも継続して行っていきたいと思います。

私の目標は、日本航空のパイロットになる事です。その目標を実現するにあたり、豊富な知識、技量、そして周りを等しく見ることのできる、柔軟に考えることのできる人間性、リーダーシップを兼ね備える事が重要だと私は考えています。それらを達成する為にも以下のことに焦点を置き、今後の訓練に取り組みます。

まず知識、技量面に関しては、ただの知識ではなく、その知識が実際の運航でどう活用され、とっさの出来事が起きても即座にその知識を行動に変換できるよう、その時々の状況をイメージ、予測しながら知識、技量の習得に励みます。

　次に、人間性です。将来、機長として航空機の運航を行うまでの長いスパンで考えたとき、現地点での訓練生として同期と寮生活を通し、衣食住を共にする環境の中で、この人間性を高めることが最も重要だと考えます。その為にも、私は同期のリーダーとして、様々な素晴らしい考え方や個性のある同期、仲間と関わっていく中で、各々の能力を引き出せるようなアプローチの仕方や関わり方をこれからも意識して実行します。

　そして、機長としてクルーやチームをマネジメントして行く際に、その学生時代に培ったノウハウを全面に発揮し活かせるよう、これからの日々を意味あるものになるよう、より一層努力し、成長していきます。